

# 第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月16日(木) 5校時

児童数 男11名 女 7名 計18名

指導者 白 井 秀 和

- 1 単元名 椋鳩十の作品を読む
- 2 教材名 大造じいさんとガン(光村図書 5年下)  
補助教材名 「最後のワシ」「片耳の大シカ」「月の輪グマ」

## 3 単元について

### (1) 児童について

児童はこれまでに、5年上「新しい友達」、5年下「わらぐつの中の神様」の2つの物語文を読む経験をしている。「新しい友達」では、登場人物の心情に寄り添いながら、その変化に沿って物語を読み取る学習をし、「わらぐつの中の神様」では、行動描写・会話などから人物像を読み取り、人物の考え方・生き方について感想をもつ学習をしてきた。

これらの学習を通して、児童は人物の心情とその変化を、文章中の言葉からとらえ読むことを行ってきた。また、重要な役割をもつ言葉に着目し作品を読む楽しさも味わってきた。しかし、子どもたちは登場人物の言動から心情を読み取ることはできても、作品全体で書き手が述べようとしていることをまとめる力は十分ではない。

また、本校の国語科アンケート結果によると、「国語がとても好き」と答えた児童は3人、「まあまあ好き」という児童が9人、「あまり好きではない」という児童が6人でどちらかという国語を好む児童が多く見られる。好きな理由に「読書・漢字・感想文・新聞作りが好き」「読むことや書くことが好き」「調べ学習が好き」などがあげられた。まあまあ好きの中には、「文章問題が苦手」「音読で漢字を読むことが苦手」「作文を書くことがあまり好きではない」という理由もある。また、「あまり好きではない」という児童も6人いる。理由は「字を書く、字を読む、字を覚えるなど全てが嫌い」「新聞作りは楽しいけど、漢字、作文、音読が嫌い」「読むこと、書くことが苦手」である。そして、「読書を通して考えを広げたり、深めたりしようとしている」と答えた児童は7人、「だいたい」という児童が8名であり、本を読む楽しさやよさを知る児童が多いことが普段の読書の姿からも感じられる。読みに対する抵抗感をなくし、読み取ったことを自分の力で表現させることが必要である。

NRTの結果を見ると、「読むこと」の領域においては、書かれている内容が理解できないことも原因として考えられる。特に、「段落の関係を考えながら読むこと」「場面や情景を想像して読むこと」「まとめたりや細部に注意して読むこと」の落ち込みが見られる。大事な言葉や文章に着目しながら読むことが必要である。

### (2) 教材について

小学校学習指導要領における高学年「C 読むこと」の領域の目標は、「目標に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、指導内容は、「ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。」「イ 目的や意図に応じて、文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえること。」「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係をおさえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。」「オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。」である。

本単元は、人物の心情や場面の情景を、叙述と関係づけながら想像して読むことを主なねらいとしている。

本教材は、児童文学者として知られる椋鳩十の作品である。狩人の大造じいさんとガンの頭領である残雪との4年間にわたる戦いが描かれている。また、クライマックス部分において、大造じいさんの残雪に対する見方の変化が、作品世界の中で重要な筋を作り出している作品である。大造じいさんのガンに挑む姿と残雪の堂々とした姿は児童の感受性に強く訴える力をもっている。これらのことから、本教材は単元のねらいに適した教材である。

本単元の学習を通して、読みを深め、感じたり考えたことを、自ら工夫して表現したりするなど、児童が興味をもちながら読むようにさせたい。

(3) 指導にあたって

習得の段階で、登場人物の心情や場面の描写など、優れた叙述を味わわせながら読ませたい。また、活用の段階で、同じ作者の別な本を読んだり似た内容の本を読んだりして、自分の考えを深めることができるようにする。

つかむ段階では、大まかな内容をつかみ、視点に沿ってあらすじを読み取らせたい。そして、単元の最後に椋鳩十の他の作品を読み、「読書発表会」をするという学習のめあてをもたせる。次に、確かめる段階では、場面の転換や物語のクライマックスの場面などに、大造じいさんの行動を写す細かい描写、秋の空や日の光を中心とした自然描写、さらに、戦う残雪の巧みさを読み取らせたい。また、大造じいさんはなぜ最初あんなに憎んでいた残雪の傷を治し、放してやったのかなど大造じいさんの心情の変化について、自分の考えや作者が伝えたかったことは何かを話し合っていきたい。最後に、ひろめる段階では、椋鳩十の描いた作品を読み比べながら椋鳩十が人間と動物の関係を描いた作品を通して伝えたかったことについて交流をする。また、椋鳩十が書いた本や動物が主人公になっている物語や人と動物のかかわりが感じられる本のブックウォークの取り組みを通し、これからの読書生活に結びつけたい。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- 自分の考えを広げたり深めたりするために、物語を進んで読もうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- ◎ 登場人物の心情や場面について描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。  
(読むこと・ウ)
- ◎ 同じ作者の別な本を読んだり似た内容の本を読んだりして、自分の考えを深め、発表や紹介をすることができる。  
(読むこと・ア)
- 人物の心情を表す語句に着目して読むとともに、気持ちがよく表れるよう音読の工夫をすることができる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
自分の考えを広げたり深めたりするために、物語を進んで読もうとしている。	登場人物の心情や場面について描写など、優れた叙述を味わいながら読んでいる。(ウ) 同じ作者の別な本を読んだり似た内容の本を読んだりして、自分の考えを深め、発表や紹介をしている。(ア)	人物の心情を表す語句に着目して読むとともに、気持ちがよく表れるよう音読の工夫をしている。 (言・エ・(ア))

5 指導と評価の計画（指導時数10時間）

段階	時間	おもな学習活動	評価規準（おおむね満足できる状況）
第一次 つかむ	2	1 全文を読み、学習のめあてをもつ。 （1）「大造じいさんとガン」の範読を聞き、一番気に入った場面の感想を書く。 ・新出漢字を確認し、難語句を調べる。 （2）椋鳩十の他の作品を読み、「読書発表会」を開くという学習のめあてをもち、学習計画を立てる。	<b>関</b> 興味をもって教材文を読み、感想を書いたり、話したりしている。 [発言・観察・ノート] <b>読</b> 大まかな内容をつかみ、視点に沿ってあらすじを読み取っている。
第二次 たしかめる	4	2 文章の内容をとらえて、自分が考えたことや、作者の思いを読み取る。 （1）作品の全体構造をとらえる。（作品の設定・作品の構造） （2）大造じいさんと残雪の戦いの様子をまとめる。 （3）大造じいさんの心情の変化をまとめる。 （4）「大造じいさんとガン」を読んで、考えたことや椋鳩十が伝えたかったことは何かを交流し合う。	<b>読</b> 作品の設定・構造・人物設定を把握している。[発言・観察・ノート] <b>読</b> 大造じいさんや残雪の言動、そして情景描写を手がかりに、中心人物の心情の変化を読み取っている。[発言・観察・ノート] <b>読</b> 読み取ったことと、既有的知識と経験を関係付けながら、作品全体を評価しながら読んでいる。[発言・ノート]
第三次 ひろめる	4  本時	3 椋鳩十がどんなものの見方、考え方をした人か、「大造じいさんとガン」と他の作品を比べながら読み深める。 （1）「最後のワシ」「片耳の大シカ」「月の輪グマ」の中から自分が読みたい本を決め、「大造じいさんとガン」で学んだ読み方を振り返り、発表の仕方について考える。 （2）発表に必要なメモを取りながら、選んだ本を読む。 （3）メモを見ながら、伝えたい内容や話す順序、中心点を考え、発表原稿を書く。 （4）学級全体で、作品を読み比べながら椋鳩十のもの見方・考え方を考え、みんなに自分の考えたこと、思ったことを交流し合う。	<b>関</b> 自分が読みたい本を選び、視点をもって読もうとしている。[発言・観察] <b>読</b> 伝えたい内容や話す順序、中心点を考え、発表原稿を書くことができる。 [観察・ワークシート] <b>読</b> 作品について交流し合いながら、みんなに自分の考えたことや思いを発表し、お互いの考えを深めることによって読み取ったことを確かめている。 [観察・ノート]

6 本時の指導

(1) 本時の目標

【読むこと】椋鳩十が人間と動物の関係を描いた作品を通して伝えたかったこととは何かを交流し合い、読書生活を広げることができる。

(2) 授業仮説

○ 仮説2 『読む目的を明確にした学習活動をする。』

椋鳩十がどんなものの見方・考え方をした人か、「大造じいさんとガン」と他の作品を交流し合うことで自分の読みがさらに深まるとともに、他の作品に興味をもち読書をしようとするであろう。

【活用3】

(3) 展開

段階	学習内容と主な学習活動	教師の支援 仮説に関わる主な支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 評価
つ か む  5 分	1 学習のめあてを確認し、前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 椋鳩十の作品を読んで、人間と動物の関係を描いた作品を通して伝えたかったこととは何か自分の考えを深めよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の支援</li> <li>仮説に関わる主な支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 評価</li> <li>前時の学習を振り返り、「大造じいさんとガン」から伝えたかったこととは何だったかを想起させる。</li> <li>本時の学習課題を一斉読み、つかませる。</li> </ul>
た し か め  3 5 分	3 本時の学習の進め方について確認する。 4 読んだ本から、各作品の感想を交流する (1) 各作品の気に入ったところを発表する。 ・ 私の一押しの作品は○○です。この作品の気に入ったところは、……です。それは(気に入った理由)、～と私は深く感動したからです。 (2) 各作品の発表から、自分の考えとの相違点について交流する。 5 椋鳩十が人間と動物の関係を描いた作品を通して伝えたかったことを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間のために責任と勇気を持って、どんなことにも立ち向かう心</li> <li>人間と動物が仲良く生きてほしい心</li> <li>すばらしいものは人間の姿であろうと、動物の姿であろうと同じである</li> <li>人間や動物の生きることのすばらしさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表メモをもとに、自信をもって発表できるようにさせる。</li> <li>自分の考えと似ている点、違っている点について特に気を付けて聞かせる。</li> <li>仮説2に関わる主な支援</li> <li>友達と自分の考えとの相違点をメモし、優れた叙述に気付いていくことができるようにする。</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 発表から、自分の考えと似ている点や違う点について交流することができたか。</li> <li>仮説2に関わる主な支援</li> <li>感想を交流したことから、共通点をもとに椋鳩十の作品を通して伝えたかったことを考えさせる。</li> <li>〈おおむね満足できる状況B〉</li> <li>椋鳩十が人間と動物の関係を描いた作品を通して伝えたかったこととは何かを交流しようとしている。</li> <li>〇Cの子への支援</li> <li>発表を聞いてどのように考えたのか、なぜそう考えたのか根拠を書かせる。</li> </ul>
ま と め る  5 分	6 本時の学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、交流し合ったことで学んだことについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返らせ、交流した感想と今後の読書生活についてプリントにまとめる。</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</span> 交流会を通しての感想と、今後の読書生活について書くことができたか。(観察・発言・ノート)</li> </ul>

課題 椋鳩十の作品を読んで、人間と動物の関係を描いた作品を通して、伝えたかったことは何か自分の考えを深めよう。

大造じいさんとガン

最後のワシ

片耳の大シカ

月の輪グマ

※ 子どもたちの発表をまとめて板書する。

まとめ

- ・ 仲間のために責任と勇気を持つこと。
- ・ いたわりや共存への心
- ・ すばらしいものに出合ったとき、心から感動すること
- ・ 生きることの喜び、美しさ

第五学年 教材分析表（物語文）  
 単元名 椋鳩十の作品を読もう  
 教材名 大造じいさんとガン

主題

大造じいさんの人間味あふれる姿、美しいもの・すばらしいものに感動する心。

構成	起	承	転	結
小見出し	タニシを付けたウナギつりばりをしかける	昨年同様、タニシをしかけ、小屋を立てる	ガンをおとりに使い、残雪とハヤブサが戦う	傷の癒えた残雪を放ち、呼びかける
場面	一	二	三	四
内容と構造	大造じいさんの残雪に対するはじめの気持ちと、残雪の知恵のすばらしさによる気持ちの変化。	大造じいさんの「今年こそ」という意気込みと、再び失敗したときの気持ち。	おとりを使うとする作戦が、ハヤブサの出現で思わぬ展開になっていく。ハヤブサとの命がけの戦いや自分に対する堂々とした態度に感動する大造じいさん。	残雪を見守る大造じいさん。
着目させたい語句（・）と言語事項（○）	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭領らしい</li> <li>いまいまして</li> <li>今年こそ</li> <li>一晩中かかって</li> <li>今度は、なんだかうまくいきそうない感じがして</li> <li>たかが鳥</li> <li>感嘆の声</li> <li>秋の日が、美しくかがやいていました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏のうちから心がけて</li> <li>あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んでいました</li> <li>うなづいてしまいました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青くすんだ空</li> <li>東の空が真っ赤に燃えて</li> <li>あの残雪め</li> <li>白い羽毛があかつきの空に光ってた</li> <li>ただの鳥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひと冬</li> <li>雪のように清らかに、</li> <li>いつぱいに</li> <li>ガンの英雄</li> <li>えらぶつ</li> <li>なあ、おい</li> <li>おれたち</li> <li>晴れ晴れとした顔つき</li> </ul>